

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化(平成27年度採択分)  
 オープンアクセス刊行の充実と電子投稿・電子審査等の活用により、国際情報発信力を強化する取組  
 (課題番号:15HP2032)

公益社団法人 日本食品科学工学会  
 Food Science and Technology Research  
 事業期間:平成27年度～平成31年度

## 1. 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Food Science and Technology Research (FSTR) は、1995年に創刊され、現在、年6回冊子体を発行している。本誌は、食品の科学と工学の幅広い研究分野の優れた研究成果を世界に発信する機能を果たしている。J-stage上においてもバックナンバーも含め、すべて公開されている。この取組においては、海外に向けての発信力を高め、国際的な認知度、情報発信力を得る事を目的としている。

そのために、掲載論文が、ウェブ上でより多くの人々の目にふれるよう、論文の全文をXMLデータとし、PDFデータと併せて公開した。また、学会誌評価の一つの指標である論文の引用頻度を示すインパクトファクターの上昇に努めた。そのために、審査の厳格化や、興味深い総説の掲載などを行った。投稿者の利便性の向上と、審査期間の短縮のために、オンライン審査システムを導入した。これにより、海外からの投稿が急増し、審査期間も短縮された。また、海外の出版社などから、積極的に情報を収集し、国際基準の雑誌を目指している。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

当助成応募時には、以下のような取組目標を設定した。  
 投稿システムの充実を図り、投稿数を保ちながら、掲載論文の質の向上を図り、インパクトファクターの上昇を目指す。海外出版社からの情報を得て、国際発信力を高める。外国人著者の総説を掲載する。外国人審査員を50名程度に増員する。J-stageでのアクセス数を、190,000件から、210,000件に増やす。

## 2. 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

J-stageでのアクセス数は、全文XML公開した事により、2016年には440,000件となり、目標の210,000件の倍以上のアクセス数となった。総説や、質の高い論文の掲載により、インパクトファクターも順調に上昇している。

編集委員の推薦により、海外からの投稿者を、査読者として登録し、査読を依頼した。現在、外国人査読者の数は35名となった。

2017年は、2報の外国人著者による総説を掲載し、2018年についても、既に、外国人著者の総説2報の掲載を予定している。

2011年にオンライン審査システムEditorial Manager (EM)を導入して以来、海外からの投稿が急増した。2013年には、掲載の決定した海外在住者は会員となる事を必須としたため、海外からの投稿が漸減した。2017年より、入会の必要は無くし、掲載料を徴収する事としたところ、9月末で昨年を上回る投稿数となった。

また、審査システムのバージョンアップや、審査ガイドラインの見直しなどを随時行い、審査の迅速化を図った。2015年では、投稿から掲載可の判定までの平均日数が131.7日、掲載否の場合は、27.3日であったが、2017年では、掲載可が91.2日、掲載否が13.2日となり大きく迅速化が図られた。

海外出版社からの情報を得るために、事務局において、海外出版社からの説明を受けた。また、国際基準のオープンアクセスの情報を得るため、2017年4月、編集委員長が、海外出版社編集長との意見交換会に参加した。9月には、編集委員長、専務理事が、オープンアクセスについての個別ミーティングに参加した。

### 4. 今後の目標

当学会には、和文誌「日本食品科学工学会誌」も発行しており、そこに「技術用語解説」として、食品科学工学に関わる最新の用語を解説する記事がある。このうち、国際的にも興味を持たれる用語を選択、英訳し、FSTRに掲載する事が企画されている。2017年11月には、J-stageのインターフェースが刷新される。この新機能を活用し、より魅力ある公開画面とする。例年、編集委員の選考により、論文賞の顕彰を行っている外国人著者への論文賞の周知についても、ウェブサイトでの掲示を行うなど、今後検討を重ねていく。紙媒体廃止を視野に入れ、査読された論文が、インターネット上で、無料で公開され、ダウンロード、配付など、その二次利用も認めるという国際基準のオープンアクセスについて、今後より知見を深めて行く。

